

都市再生整備計画

こみねじょうかまちちく
小峰城下町地区

(第5回変更)

ふくしま しらかわ
福島県 白河市

令和5年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	福島県	市町村名	白河市	地区名	小峰城下町地区	面積	189 ha
計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度				

目標
 大目標: 当該区域は、第2期白河市中心市街地活性化基本計画に定める計画区域、白河市歴史的風致維持向上計画に定める重点区域、都市再生整備計画「白河市中心市街地地区」(平成25年3月提出)に定める計画区域を含むため、これらに基づく事業を総合的かつ一体的に展開することで、歴史的風致の有効な活用と市民のまちづくりに対する積極的な関与を促されることに加え、国道294号バイパスを中心とした城下町地区を集中的に整備することで、街なかの賑わい創出を図る。
 <目標 1>「城下町白河」の個人的な歴史的・文化的資源に磨きをかけて、交流人口の拡大を図る。
 <目標 2>当該地区内の回遊性を高めるために、歴史的風致形成建造物や回遊拠点となる施設の充実を図るとともに、良質な都市景観を形成することにより、地域の魅力向上を図る。
 <目標 3>当該地区への滞留性を高めるために、歩行系ネットワークの形成とともに交流広場等の整備・拡充により賑わいを創出し、中心市街地の活性化を図る。

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 本市の中心市街地は、東北新幹線の開業に伴いJR新白河駅周辺において新たな都市基盤整備が行われたことや、車社会の進展による生活圏の拡大、大型小売店舗の中心市街地からの撤退等、社会環境の変化が重なり、かつての賑わいと魅力が失われ、都市の低密度・分散化が進んでいる。一方で、中心市街地は、交通結節点としての利便性や都市機能の集積があり、400年来の城下町として、長い歴史の中で、文化や伝統を育み、地域の交流や都市の交流を創造し、白河地方の中核として様々な機能を果たしてきた。歴史に裏付けされた「まちの顔」ともいうべき要所である。
 本市の都市づくりにおいては、平成21年3月に白河市都市計画マスタープランを策定し、「交流創造都市 ふるさと白河」を将来都市像とし、城下町として発展してきた産業や交通基盤等を活用し、商業・業務・都市サービスの都市機能の集積や土地の有効活用を図ることとしており、その取り組みを促進する「白河市立地適正化計画(予定)」においては、行政や医療施設が集積し、地域資源や観光資源が豊富な白河駅を中心とした中心市街地を本市の都市機能を支える核の1つとして捉え、交通の利便性が高く商業施設が集積する新白河駅周辺エリア、2次救急医療機関が集積するスマートIC周辺エリアとの役割分担・相互連携により、一体化を図りながら、低未利用地の活用により、都市機能集積をし、公共・公益サービス機能を維持することとしている。
 当該地区においては、「白河市公共施設等総合管理計画」に基づき、財政負担の軽減を図りながら市民が必要とする行政サービスの維持向上を目指すため、民間力を活用、施設の複合化、多機能集約化を図ることとしており、少子高齢化や人口減少に対応した公共施設の再編を進める。

まちづくりの経緯及び現況
 ・本市は、福島県の南部中央に位置し、平成17年11月の4市村(白河市、表郷村、大信村、東村)による合併によって面積305.3km²、人口約65,000人である。古くからみちのくの玄関口として「白河の関」が置かれ、人やものが交流する要所として重要な役割を果たすとともに、歌枕の地として多くの人々が訪れた。中心市街地は、約400年前、小峰城とともに奥州街道沿いに白河藩の政治経済の中心地として城下町が建設され、都市としての歴史が始まったもので、昔の都市の骨格のままの「カギ型」の造りを残す旧奥州街道(現在の国道294号)を中心とした街なみの中に、城下町の面影を伝える歴史的な建造物や伝統行事等の歴史的文化的資源が多く現存し、白河市の顔となっている。
 しかし、東北新幹線の開業に伴いJR新白河駅周辺において新たな都市基盤整備が行われたことや、核家族化を主な要因とする一戸建て住宅の需要の高まり、車社会の進展による生活圏の拡大、大型小売店舗の中心市街地からの撤退等、社会環境の変化や少子高齢化による人口減少などにより、良好な歴史的風致を形成してきた商家や蔵などの歴史的建造物の維持が困難となっており、建物の老朽化や空き家・空き地が増加するなど、旧城下町の良好な町並み景観が失われつつある。また、祭礼や伝統産業の担い手不足など、長年受け継がれてきた本市を代表する伝統行事や伝統技術の継承が大きな課題となっており、地域固有の歴史的風致とともに、中心市街地の活気が失われることが危惧されている。
 ・このような状況下で白河らしいまちづくりを推進するため、「白河市中心市街地活性化基本計画(第1期:平成21年3月認定、第2期:平成26年3月認定)」「白河市歴史的風致維持向上計画(平成23年2月認定)」「白河市景観計画(平成23年3月策定)」の3計画を軸に重層的な施策に取り組んでいるところである。
 中心市街地活性化に資する事業
 りぶらん(白河市立図書館)オープン H23. 7. 24
 コミネス(白河市民文化交流館)オープン H28.10.23
 マイタウン白河(中心市街地交流センター)リニューアルオープン H28. 11. 15
 歴史的風致の維持向上に資するもの
 歴史的まちなみ修景事業／歴史的風致形成建造物保存修景事業／無電柱化事業／旧藩本陣柳屋旅館建造物群整備事業／しらかわ歴史回廊事業(街なか案内の看板作成)／丹羽長重廟周辺整備事業／小南湖公園整備事業 等
 景観まちづくりに資するもの
 景観行政団体 H21. 4. 1
 白河市屋外広告物等に関する条例 H28.4. 1
 歴史的風致維持向上地区計画 H28.7. 1
 これらの事業を総合的かつ一体的に展開することで、投資効果をより一層高めることができる。

課題
 ・各種事業を通して、市民の歴史的風致に対する関心は高まりつつあるが、これを中心市街地活性化につなげるためには、町内会や商店街等による地域の盛り上がりやや欠ける。歴史的な資源を白河の魅力として内外にアピールに努めるとともに、歴史的風致を活用して、市全体の中心市街地活性化につなげなければならない。多くの自治体が交流人口の増加にしのぎを削る中、本市ならではの魅力で差別化を図る必要がある。
 ・歴史的風致形成建造物は本市の歴史的風致の重要な要素であるが、所有者の中には「先祖から引き継いだものなので、後世に残すという趣旨には賛同するが、子ども達の負担にたくないで、自分の代までのことと考えている」という意見もあり、負の遺産と感じている所有者も少なくない。当該建造物を見学する事業等により、所有する建造物にスポットが当たることで、価値を再認識し、保全の気運が高まったように感じられる。この気運を個々の所有者だけのものとはせず、もう一歩踏み込んで、町内会や商店街等が地域の資源を共に活用し、地域全体の盛り上がりにつなげていく核となるような施設が求められる。また、歴史的な景観は一度失われてしまうと取り返しのつかないものであるから、これを保全することは良好な歴史的風致の維持に不可欠である。
 ・りぶらん、コミネス、マイタウンといった集客と回遊の拠点となる施設の充実により、市民の芸術文化活動や交流活動は活況を呈しつつあるが、この機をとらえ、市民がより積極的にまちづくりに参加する環境を整備するため、交流拠点の拡充や回遊性向上に資する駐車機能の集約化等の取り組みを続ける必要がある。
 ・歴史的建造物やまち並みを見て歩くイベントはピーターも多く、また、本市の歴史を主題としたご当地検定も好評を博している。どちらも市内外からの参加者を集め、本市の歴史的風致への関心の高さを窺うことができるが、これを日常的な街なか回遊へと導き、賑わい創出につなげるため、実際に歩くことのできるルートの提示が必要である。あわせて、街なかでの滞留時間を長くするため、歩行での滞在を快適なものとするような整備が求められる。

将来ビジョン(中長期)
 ○白河市第二次総合計画では、市街地の整備として、地域の特性や機能に適合したまちづくりに資する地域整備計画等を検討し、賑わいのある市街地の形成のための整備に努めるものとしている。
 ○白河市都市計画マスタープランでは、土地利用の方針として、城下町を核とした中心市街地においては、400年の歴史と文化を再認識し、中心市街地の魅力やにぎわいを取り戻すとともに、リングロード(交流の輪)を活かした魅力ある拠点づくりを行うとしている。
 ○白河市中心市街地活性化基本計画では、「歴史・伝統・文化が息づく市民共楽の城下町」をコンセプトとして中心市街地の再生を図るために、「城下町の快適なくらしづくり」、「匠の技とおもてなしの商店街づくり」、「市民共楽のふるさとづくり」という三つの基本方針を実現化するまちづくりを推進している。
 ○白河市景観計画では、良好な景観形成は、白河市の魅力を高め、観光をはじめとする様々な交流人口の増加にもつながるものであり、まちづくり、文化の振興、産業活性化にも寄与するものであるとしている。
 ○白河市歴史的風致維持向上計画では、中心市街地を含む重点区域の歴史的風致の維持向上の効果として、市域全体の魅力向上にも繋がり、歴史と文化が息づく地域に住むことへの誇りや愛着を高めることにより、交流人口の拡大など地域経済の活性化にも寄与することができる。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

本市の市街地には、行政・文化・医療施設等が集積する白河駅周辺地区と交通の利便性が高く商業施設等が集積する新白河駅周辺地区の2つの都市拠点が形成されている。さらに、白河中央スマートIO周辺には大規模な病院が立地する医療拠点が形成されており、多極化の市街地構造がみられるなかで、それぞれの特性に応じた役割分担と相互連携による一体化を図ることで、都市の活力や市域全体の生活を支える都市機能の維持を促進していくこととする。郊外部においては、生活サービスが提供できる環境を維持するとともに、市街地からのアクセス手段を確保することで、人口集積の維持と生活サービスの向上につなげていく。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

国道294号バイパスの整備に伴い、主要な観光拠点である小峰城と南湖を結ぶ新たなルートが形成されることから、中心市街地にあるりづらん、コミネス、マイタウン白河の連携的な活用や市街地の回遊性を高めることで、まちなかの活力向上、新たなビジネス需要の喚起につなげる。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
平日歩行者通行量	人/日	中心市街地内の平日歩行者通行量(8箇所、8時間) (白河市調べ)	中心市街地における回遊性の向上及び交流人口の拡大の指標とする。 都市交流拠点の拡充や歴史的資源の整備により、回遊性の向上及び交流人口の拡大を見込む。	2,107	H28 2,370
中心市街地市民交流センター (マイタウン白河)利用者数	人/月	中心市街地市民交流センター(マイタウン白河) に係る月間利用者数 (白河市調べ)	交流活動の指標とする。 中心市街地の交流拠点であるマイタウン白河の月間利用者数の増加を見込む。	10,791	H28 11,141
小峰城三重櫓観光客入れ込み数	人/年	小峰城三重櫓の観光客数 (白河市調べ)	歴史的風致に係る回遊性の向上及び交流人口の拡大の指標とする。	85,600	H28 92,400

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1【「城下町白河」の歴史的・文化的資源を活かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致建造物の核ともなる旧小峰城太鼓櫓について、経年劣化及び震災による損耗箇所の修復整備を行い、まちなか回遊性の向上を目指す。 ・城下町の面影を残す歴史的建造物について、街並みの魅力向上のために修復を行い、良好な景観の保持を図る。 	<p>旧小峰城太鼓櫓等整備事業～街なみ環境整備事業(基幹事業/市) 歴史的まちなみ修景事業～街なみ環境整備事業(基幹事業/市・所有者) 歴史的風致形成建造物保存修景事業～街なみ環境整備事業(基幹事業/市・所有者)</p>
<p>整備方針2【中心市街地内の滞留拠点の充実と良質な都市景観の形成による魅力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白河市のシンボルともいえる小峰城へのアクセス道路を拡幅整備するとともに、歩行スペースの確保と歴史的風致と調和した高質な街路として改良する。 ・来街者の増加や中心市街地の回遊性を高めるために、公共空間や遊休不動産の利活用を推進し賑わいを創出する。 ・街並みの良好な景観を創設・維持する活動を行っている団体を支援し、更なる市街地の魅力アップを図る。 	<p>(市)城山線～高質空間形成施設(基幹事業/市) 景観まちづくり支援事業～街なみ環境整備事業(基幹事業/市) 既存公共空間活用調査～事業活用調査(提案事業/市)</p>
<p>整備方針3【都市交流拠点施設の整備・拡充による賑わい創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白河駅に隣接する老朽化が著しい既存建造物を物産交流を図るセンター施設として大規模改修(リニューアル)し、地場産品の開発や展示PR等を行いまちなか交流の充実と賑わいの創出を図る。 	<p>まちおこしセンター整備事業～既存建造物活用事業(基幹事業/市) 公共駐車場有効活用システム整備～地域創造支援事業(提案事業/市) まち歩き支援コンテンツ整備～地域創造支援事業(提案事業/市)</p>
<p>その他</p>	
<p>○景観形成ガイドラインの策定 白河市景観計画において景観計画推進区域となる本市中心市街地には、旧奥州街道などを中心として歴史的建造物の商家や蔵などが多く存在し、旧城下町としての景観を色濃く残している。これらの歴史的風致の保全を図るため、沿道建造物の修景等に対する支援を行うことから、景観計画における推進区域の推奨基準に基づく景観形成ガイドラインを平成24年3月に策定し、歴史と景観を活かしたまちづくりを積極的に推進している。</p> <p>○本町北裏地区 歴史と伝統を活かしたまちづくり計画提案書の策定 中心市街地内にある本町地区では、小峰城外堀土塁跡や旧勤工場等の歴史的風致形成建造物や、土蔵や町屋建築など歴史的な資源が数多く残っているが、老朽化に加え東日本大震災の被災により、それらの建築物の維持管理が難しくなっている状況や、狭隘道路の改善等の生活空間の向上が求められる本地区において、歴史と伝統を活かしたまちづくりをコンセプトに、地域住民による本町地区まちづくり協議会と早稲田大学が共同で将来ビジョン計画を策定している。歴史的風致形成建造物を活かしたまちづくりを進めていくための問題点や、具体的手法についても検討が重ねられており、市民レベルで地域の個性を尊重するまちづくりへの取り組みが進められている。</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動について ・事後評価の達成度について、市の広報紙やホームページなどで市民に周知する。 ・都市再生整備計画事業によって整備された施設が継続して効用を発揮できているかどうかを検証する地域のまちづくり勉強会や先進地視察、まちづくりの専門家による講演会等の開催を実施していく。</p>	

小峰城下町地区(福島県白河市)	面積 189 ha	区域 白河市会津町の一部、道場小路の一部、郭内、中町、手代町、円明寺ほか
-----------------	--------------	---

